

「人はサルに対抗できるのか？」

～身体能力と知能から考える～

飯舘村にはサルがたくさんいますし、被害も多く発生しています。しかし、サルの能力については、誤解や過大評価されている部分もあるようで、特別に対策が難しい動物と考えている人もいるかもしれません。そこで今回は、サルの能力のうち、対策に関係のある部分をご紹介します。

身体能力

皆さんもご存じの通り、サルは器用に手を使います。そのため、木や電柱、獣害対策用の柵にもよく登ります。また、昔から猿(ましら)と言えば運動能力や武芸に長じた人の例えであるように、高い運動能力を持っています。特に、ジャンプ力に優れていますから、ワイヤーメッシュ柵の上に電気柵を乗せた複合柵でも、近くに木や電柱などがあると、そこに登ってからジャンプして飛び込んでしまいます。サル対策のために柵を設置する時は、木や電柱などから3mくらいは離してください。

嗅覚や聴覚は人間と同じくらいで、哺乳類としてはあまり良いほうではありません。視力も人間と同じくらいですが、これは哺乳類としては良いほうです。サルは臭いなどではなく、目で見て畑の作物などを見つけています。サルに狙われやすい作物は畑の中ほどに植えて、周りから見えにくくすることも有効です。

知 能

私が狩猟を始めた頃、先輩のハンターから「サルに銃を向けると手を合わせて命乞いする」と言われたことがあります。もちろんデマです。サルは人間の幼稚園児くらいの知能があると言われていますが、当然ながら人間ほど賢いわけではありません。しつこいので、長い時間をかけて何度も柵内に侵入を試みるなどして、対策をすり抜けがちです。また、学習能力があるので、それを逆手にとって、家や農地に出てくるサルを繰り返し追い払ってれば、人間は怖いものだと言わせ、出没を減らすこともできます。ある程度の知能があるからといって対策を諦めるのではなく、うまく利用して対策に活かしたいですね。

サルは優れた運動能力を持っていますが、対策ができないほどではなく、工夫することで食い止められるくらいのものです。ある程度の知能を持っているので、それを対策に利用することができます。

敵を知り己を知れば百戦危うからず！まずは相手のことを正しく知しましょう。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

きょうぐろ あつ し
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



イラストも…!

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介します

まい飯レシピ
やるしかないから、
今日もごはんを作る！



まい 作
主婦の友社

5人の子どもを育てる著者。毎日忙しい中で活用できる実用的なレシピがたくさん。すぐに作れるものばかりで、お腹も心も満腹になります。

特盛バズレシピ



リュウジ 作
扶桑社

人気の料理研究家・リュウジ。SNSで急激に拡散されて注目を集めているレシピは、簡単にできて確実においしい。これを機に、バズレシピに挑戦してみよう。

問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

オオカミ天井絵

歴史の散歩道

永承6年(1051年)に創建されたと伝わる佐須の山津見神社。山の神を祀り、広く信仰を集めています。縁起によれば、源頼義公が凶賊 橘墨虎の討伐に苦戦していたところ、山の神が夢に現れ、白狼の足跡を追うよう告げました。これに従い臣下がオオカミの足跡を辿り、岩穴で墨虎を発見して成敗。頼義公が山頂に祠を建て、山の神を祀ったと伝わります。墨虎を捕らえたことから山の名が「虎捕山」に、「刺す」が地名の「佐須」になったとも言われます。

藩の絵師・伏見東洲らが描いたとされる旧オオカミ天井絵237枚は、全村避難中の平成25年4月に、火災により焼失しました。当時、復元を願う地域に寄り添い多くの人が立ち上がりました。焼失直前に和歌山大学の加藤久美教授と写真家のサイモン・ウーン氏が記録撮影をしていた写真を足がかりに、復元プロジェクトが始動。東京藝術大学大学院の荒井経教授(当時は准教授)と研究生らが、記録写真を手本に237枚を復元。再建された拝殿の構造に合わせて新たに5枚の図案を追加し、242枚を完成させました。

オオカミ天井絵は、訪れる人が絶えない山津見神社で、人々に愛され、新たな時を刻んでいます。



平成28年、復元後の設置を前に福島県立美術館で行われた公開展。関連資料も展示され多くの人が来場。



1枚の大きさは約45cm四方。どの方向からも見られるよう、設置の向きはバラバラにされています。